

IHATOV HARNAMUKIYA TOWN

賢治・星めぐりの街 花巻

ようこそ、イーハトヴ・ハナムキヤへ

ここ花巻は賢治賢治が生まれ育った街。作品の舞台やモデルとなった場所が、今もあちこちに息づいています。さあ、彼の作品を携え、発想の原石を訪ねてみましょう。実際に街をめぐりながら、賢治が指した風景を見つけに、星話の世界へ旅してみませんか？

www.harnamukiya.com

このマップ・リーフレットは、「賢治・星めぐりの街活性化協議会」が、ハナムキヤ景観研究所・米地文夫(岩手県立大学名誉教授)先生の資料と指導により、花巻市街地の宮沢賢治作品の題材や舞台のモデルとなった場所を紹介するものです。「賢治・星めぐりの街活性化協議会」は、花巻市街地に残された賢治作品の題材やモデルなどを調査・分析しながら一般に紹介し、その活用を目指す団体です。

このマップ・リーフレットおよびホームページは、財団法人いわて産業支援センターの「いわて希望ファンド活性化事業(中心市街地活性化事業)」の助成金を活用して制作しました。

制作年月日 平成22年9月

後援 社団法人花巻市観光協会・花巻商工会議所

賢治・星めぐりの街活性化協議会 + ハナムキヤ景観研究所
事務所 〒025-0063 花巻市下小舟道237-3 株式会社木村設計A・T内
TEL.0198-23-3818 FAX.0198-23-3291
ホームページアドレス www.harnamukiya.com

マップ上の★マークの見方

- ★ 作品に登場する場所のモデル地
- ☆ 宮沢賢治ゆかりの場所
- 中心市街地 宮沢賢治ゆかりの道

「イギリス海岸」とプリオン海岸

賢治が名づけた「イギリス海岸」は、今から120万年～140万年前の泥岩地層が現れた北土川河畔です。ここから「バタグミ」の化石や、真岡の足跡が発見されました。付近一帯は遊歩道や公園が整備されており、水位の上昇により、あまりその泥岩層を見る機会は少なくなっています。「銀河鉄道の夜」に登場する「プリオン海岸」は「イギリス海岸」がモデルです。プリオン海岸で発掘調査する学生のモデルは、賢治と一緒にこの地層を調査した、古生物学者「早坂一郎」博士(1891-1977)がモデルと考えられます。



「銀河鉄道の夜」白鳥の停車場

「銀河鉄道の夜」に出てくる「白鳥の停車場」は、作品中では「プリオン海岸」への入口に相当するモデル地です。そうすると現在のイギリス海岸の入口付近が場所のモデルでしょうか。主人公のジョーパンニや友人カムパネルラの名前から欧州・イタリアあたりがイメージされますが、「白鳥の停車場」の前にはヨーロッパには無い観音(いちよう)の塚が登場することなどを考えると、イギリス海岸近くで実際に観音の木があり、軽便鉄道沿線の「小舟渡八幡宮」付近ではないかと思えます。そこで、神社前の「イギリス海岸バス停」には「白鳥の停車場」をイメージしたバス待合所を制作しました。



瀬川に架かる岩手軽便鉄道の鉄橋を紹介する「山地の礎」

「銀河鉄道の夜」を彷彿させる、当時の岩手軽便鉄道の有名な写真。列車が「瀬川陸橋」を渡る時のものです。この陸橋は鳥谷崎神社の裏手を走る軽便鉄道の列車が、花巻城の堀の役目をしていた「瀬川」を越え、高台にあるお城から一気に小舟渡方面に降りていけるようにつくられました。賢治は、この陸橋の整備風景を「山地の礎」という作品に残しています。※現在、瀬川は北側に切り替えられ、かつて川があった面影はありません。



JR花巻駅周辺

賢治の時代の花巻駅は、旧国鉄花巻駅と岩手軽便鉄道の始発駅があり、国鉄は東京・仙台・盛岡の南北交通、軽便鉄道は東の遠野へと伸び、さらに当時最新の花巻電鉄の電車が西の山荘の温泉地帯とを結ぶ交通の拠点でした。賢治はこれらの交通機関を利用して盛岡、東京そして遠野方面へも足を延ばしました。「シグナルとシグナレス」はこの地点が舞台です。



岩手軽便鉄道鳥谷ヶ崎駅跡

「猫の事務所」に登場する軽便鉄道の駅のモデルとなった「岩手軽便鉄道・鳥谷ヶ崎駅跡」。小友木村店前にある石碑に、時「若手軽便鉄道 7月(ジャズ)」の一文が紹介されています。当時、この隣の西側に岩手軽便鉄道の本社社屋があり、「猫の事務所」のモデル「猫の事務所」や賢治が勤務した「精養軒学校」もすぐ近くにありました。



「銀河鉄道の夜」小学校跡

賢治が入学した「花巻川口尋常小学校」は、花巻城の大手門跡近くにあり途中で校舎が新築され「花巻尋常小学校」に校名が変わります。その後さらに、花巻小学校と名を改め、お城の二の丸跡にあたる現在の場所へと移りました。跡地には、記念碑と石碑が建てられています。「銀河鉄道の夜」のジョパンニが通う小学校はここがモデルになっていると考えられます。



「銀河鉄道の夜」時計店跡

「銀河鉄道の夜」の中に出てくる時計店は、賢治の生家のすぐ近く、上町にあった「鉄野時計店」がモデルといわれています。現在、店があった痕跡は何も残っていませんが、近くにあるマルカンアパートを挟んで西へ150m程行った並びにある「賢治の広場」で関連の展示を行っており、賢治のようにマントと帽子で決めて記念写真の撮影もできます。



「黒ぶどう」「菊池 押郎」

高野「黒ぶどう」の舞台「ベテラ公衆の別荘」は、北大初代校長佐藤嘉介(花巻出身)の教え子で、明治製糖の工場長となった「菊池押郎」がモデルとなりました。彼を中心に周りの人間関係を賢治がいたずらのように寓話化した作品です。この物語に隠された人物を推理すると、賢治の心に触れることができるかもしれません。



「銀河鉄道の夜」活版所跡

賢治は当時ここにあった「大正活版所」で「春と修羅」を出版しています。この本自体はあまり売れませんが、後に「小学校から3つ曲がった活版所」として「銀河鉄道の夜」に登場します。現在は畑井菓子店が同じ場所と建物で営業し、絶品の団子とお茶割りを扱っています。店先には「春と修羅」の出版を記念した石碑が建てられています。



「毒もみの好きな署長さん」

「毒もみの好きな署長さん」は、蒲らの町の警察署長が、禁止されている「毒もみ」という方法で川魚を獲り白身を逮捕、裁判で死刑が決まりますが「地獄でも毒もみをやるかな」と言い強し刑罰されるちよととシチュエーション。モデルの旧花巻警察署跡近くに、無料休憩所などを備え、観光案内や物産の展示販売も行っている「まちなかビジターセンター」があります。



「税務署長の冒険」の税務署跡

「税務署長の冒険」は、「ユグチユモト」村の密造酒の摘発を自ら受装して行う「ハナムキヤの町」の税務署長の物語。当時、実際に横行していた密造酒の取り締まりを行う税務署の仕事を、署長の冒険物語として書き下ろしています。



「祭りの晩」の舞台「御旅屋」跡

当時も今も花巻祭りの中心ゾーンは、賢治の生家からも近い東町にあった「御旅屋」です。その頃は境内に広場があり、子供達の格好の遊び場となっていました。賢治少年もここで遊んだのでしょうか。祭りになると見世物小屋や周遊にはたくさんの露店が立ち並びます。「祭りの晩」の舞台は、この御旅屋の見世物小屋と周遊の露店がモデルと思われる。



ハナムキヤ城の四角山

ハナムキヤ城の四角山を舞台に「めくらぶどうと虹」そして「マリヴロンと少女」賢治が浪人時代にさまざまな思いにふけった場所です。花巻城跡は、「四又の百合」など多くの作品に登場します。当時、花巻城二の丸跡の運動場北側にあった「四又山」は見晴らしがよく、浪人時代の賢治もよく登っていたようです。この小山を舞台に「めくらぶどうと虹」・「マリヴロンと少女」の二作品を残しました。その四角山は取り壊されてしま、今は残っていませんが、花巻城の大手門があった場所付近(岩手県南側)に復元された遺構があります。

